



忠婦
美終

為衣子紙

五

45
遠13
959
5



明遠 13
第 959
卷 5

本清



美談 薄衣草紙卷之四

兼題

寄金苦肉

江戸

津川亭著述



却説中納言政則のやま守頼の倭を止対るじく。盗臣黒夜叉が
奸計ふまじくひ。故大納言清実卿の館を放火し。其屋ふきで家
賢と奪ひひらんとせられども。その謀計のうごさるのまうかへん
黒夜叉をいめ條多の従者紙けるひ安かばおめりまじくども。今
さら詮まざるく。まうりて人口を察せんま。い觸りたる郎黨
黒夜叉あるりの兼て行状乱放るるを。されども。勅當志梅多
才のうごさるぬまう強盗とるりまて。まうさるや梅里の館へは
悪報即よまうりて。その身をまめ受くの子下と討しぬるより。ま

及女子四

有りるん。が先見毛髪もながりど世の取沙汰を覆ふとまら
 ど。隠しつるゝと顯つるゝと悪くもの逸々やもんつらつら
 て。今のちや雅志ふぬ者もあつ。危やせ中角やあつと噂はひ
 けまどもの。其萩の前あつ紙のつと執奏はあつりのもつ。まらど
 ぼどく天孫あも入るせのひぬるやあつぬ。叔その比主上御狩を好せ
 めのひ。つとけく狩野を。往昔うり田跡の地あり。破織帝を始
 まつて。代々の聖主も愛よ。持産さるゝのひぬ。その後ハまらど
 中級もとら。當今後冷泉帝。此野外は行幸するのひ。後日會
 と放ら犬をとりら。あめひ。よ。その日ハ巾物扱くあつて天孫跡
 驚ろく帝も巾車の中あり。自ら放棄せよ。ひはあつぬ。
 養やうとら。薄織とらる。あつ。つとあつ。見。此遠物御養を備

るが。この高も柳ど。北破織の方へ飛り。まらど。巾車。司の官人ハ
 りも。さう。よ。供奉の面。り。改と慕ひ。追り。あ。帝も。さ。乗
 う。く。や。敬慮あり。巾車を進え。のひ。ら。あ。つ。あ。よ。か。の。養
 幾。ど。あ。つ。つ。悟道寺とらる。禅林の本堂のまら。あ。あ。
 松の梢。柳を。や。と。ひ。居。け。と。バ。人。く。も。追。ひ。く。と。つ。り。は。ま。ら。
 ら。の。粹。を。よ。ん。く。鉢。壺。を。ら。る。つ。つ。一。味。子。の。笛。も。ど。合。つ。れ。ど。も。
 曾。て。り。り。来。つ。ば。人。も。至。惑。つ。つ。只。も。よ。汗。は。ま。る。と。ら。り。詮。方
 り。く。ぞ。ん。え。り。り。主。上。是。と。破。織。と。ら。あ。つ。く。彼。雲。の。許。ハ。巾。車。を
 奏。させ。の。ひ。おん。物。見。よ。ん。おん。琴。お。さ。せ。の。ひ。ひ。け。ま。ら。や。つ。く
 飛。び。つ。ら。つ。つ。止。り。つ。つ。龍。顔。を。紙。う。ら。つ。け。は。ま。ら。人。く。も
 ころ。び。の。ひ。ら。り。頃。々。神。々。月。の。た。め。あ。つ。て。日。の。教。の。と。經



嵯峨に降幸
快乃寺の舟と
殿見ある

八寸茶好



柚主人の
難に
迫りて
丹三と辨る

丹三と辨る

丹三と辨る

行方ちととと述んあれあつとと勅答よおよびるの傍
 とくく女性不對して懇情の沙汰おもおよのまじごと素より
 かの人もも信後の方をものめどその日のうら何方へ
 乃ゆや今よ乃方せうけものつげと勅答よおよびられ
 后且くとも有るん便るけまとい車翠簾さあつ
 かく還来りりひひる。さまもさておれ丹三の青結
 てまうつぐとものいけれを姫の宝器を奪ひとりて賞金
 を給んまのと好ま謀計るまども挿と賣んとしあつ
 さうよあり後かづば時雨の松の色かくさるもつ
 こそ増ええ何ぞかまを苦めく價をゆるる次志のびん
 敷回案どるがまはまうつけく一料さあひひひひひ

青結よ今度の約を愛し挿よかの止せ一五十一
 ころが赤紅を願へ見せんよ原よりかみ髪は懲り
 主の難儀は迫りくつをむとくころが髪はまて
 を退りし老人とん別は妙斗ありやう挿をよ入
 みく。の紙をうらつ。褒賞と目揚よ新らん。是
 ころゆる良計るふんと。ゆよよろらび。その
 家よ至り挿よまきてりやう。これ今青結り
 恋慕の情よあまむ。おん身の人とのまら。おん
 尋せうのね大夏をを発ま。むと定まてく。う
 この家へ尋ひありし法師こそ信人よりし
 りのゆえ。種所よりさびく。尋ひありし。三年あ

寛哉の悟道寺に入りて傍とらりしる。服をきりめりぬ。おれ
 ぐるの人々の身の人と詳よまのらつ。こんとてその惡子
 荷膽人よす。きりあへ。ほと。又おん身の為をおりひく。美
 くるこまよりく。彼が工樹を唆く。法師ののこる。明日の
 夜おん身をぬきし。難波津へ送る。狂女よ賣り。きりし。く
 のら姫の改よりつた。あ。宝器を奪ひとり。京師の桂山どの
 とやさんへ持参。賞合よ。あつ。んと。ひ。ゆ。い。れ。由。合。群。乃
 約をり。別。進。ぬ。殊。よ。力。量。あ。る。惡。法。師。の。進。げ。ば。か。ど。て。や。お。ん
 身一人して。危難をの。の。れ。つ。て。う。ち。も。お。の。り。ま。さ。と。餘。の。痛。う
 こと。よ。り。ま。い。その。約。を。裏。し。て。その。死。告。す。の。と。と。と。の。う。つ。あ。る。れ
 どもおん身の。む。つ。あ。ら。ぬ。此。大。変。を。適。々。方。便。な。ら。ぬ。也。も。あ。ら。ぬ。ど。

苦しむ。思慮の。の。人。か。と。笑。より。挿。入。を。ら。と。な。り。く。よ。む。後
 續。と。兔。角。の。返。答。も。あ。ら。ぬ。づ。づ。お。り。ぬ。や。う。に。か。り。の。け。り
 る。とも。中。主。の。為。なり。あ。ら。げ。ん。て。あ。ら。ぬ。後。に。兩。方。の。お。ん。身
 の。う。ち。に。お。け。何。ふ。と。も。な。ら。ぬ。ひ。が。ら。ぬ。と。さ。ら。ぬ。ね。侍。よ。り。て。あ。し
 この。め。の。を。す。し。返。す。今。宵。の。う。ち。よ。何。方。へ。ま。り。と。も。侍。ひ
 ません。さ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。中。悪。棍。の。つき。あ。ら。ぬ。ハ。は。先。と。その。受。本
 る。不。知。や。づ。ら。の。め。の。を。偽。し。て。見。か。し。と。面。よ。笑。を。含。む。と。
 丹。三。よ。對。ひ。て。の。や。う。よ。う。に。そ。実。よ。告。す。せ。ぬ。の。の。り。の。う。ち。よ
 づ。づ。あ。ら。ぬ。妻。り。く。笑。ひ。ぬ。も。め。ひ。と。母。妹。と。し。ら。し。お。き。か。ら。ぬ。と。を
 實。の。こ。り。か。主。君。あ。ら。ぬ。今。その。零。落。よ。仕。つ。る。身。の。り。は。ま。む。か。く
 おん身の。数。あ。ら。ぬ。も。め。ひ。と。親。し。も。め。ひ。と。と。の。外。に。

丹三青然と

三條河原に

丹三青然と
三條河原に
命と失ふ

丹三青然と



りてくるせーへ。二ッあか主の前を悼へ。二ッおん身の赤い由知り
ほぐれば。誰とて女の手も。男も慕つて。悪まよおのひ
侍さん。殊も今おん身のいひを。と受け人々。とをいふ。めいりんが
身をも。あひのり。びらそ。悪徒よ。纏へる。さま。い。其企を。ま。す。は。し
告。ま。い。め。め。切。る。を。え。る。よ。つ。け。夫。程。の。ま。と。あ。お。ん。身。で。ど
ま。で。難。面。り。て。る。せ。ー。ゆ。今。さ。う。面。目。あ。く。耻。お。不。ま。さ。の。救。さ。ら。せ
の。人。縦。今。お。ん。身。の。か。り。を。め。の。情。よ。お。ん。身。と。も。も。い。ん。の。か。り。さ。さ。の
松。山。よ。彼。を。裁。る。と。も。ま。る。ら。う。の。家。た。ら。う。ゆ。あ。い。だ。ま。の。あ。ら
愛。よ。一。ッ。の。故。障。あ。り。こ。ま。を。除。か。ん。と。ま。る。よ。ま。の。い。り。る。う。安。う
して。ま。さ。の。う。難。し。遠。ま。お。ん。身。の。力。あ。お。ん。身。が。か。ん。ま。れ
ど。ゆ。の。妨。げ。を。拂。い。が。れ。ば。お。ん。身。と。長。久。の。契。の。人。締。び。が。い。
是。ぞ。い。づ。の。身。を。別。の。園。る。と。と。膝。さ。う。い。せ。つ。袂。を。り。つ。と
糸。を。覆。へ。ば。丹。三。の。彼。を。ま。と。ま。と。ま。よ。お。ん。身。で。意。の。中。に。碎。が
い。ゆ。ゆ。と。め。り。つ。と。已。が。顔。と。接。り。ゆ。や。お。ん。身。が。い。は。従。ひ
め。り。外。は。折。る。言。葉。ま。い。個。お。ん。身。の。為。と。い。ふ。の。う。の。と。だ。
ど。が。命。を。め。と。接。ん。の。ま。が。づ。その。縁。由。を。書。か。な。語。り。と。ま。い。
挿。ま。糸。よ。あ。そ。袖。を。ま。ら。う。と。い。や。う。別。の。子。細。も。あ。ら。う。と。
彼。青。熊。と。う。い。法。師。の。う。の。め。目。ら。そ。け。あ。う。と。い。や。う。と。い。や。う。
こ。ま。の。を。ま。ま。ひ。ま。ら。ん。と。い。あ。う。と。い。や。う。お。ん。身。よ。終。身。を。た。ま。う。
こ。か。り。つ。と。是。を。い。つ。あ。う。と。防。ぎ。の。め。い。や。丹。三。を。ま。く。その。障。る。は。
道。ま。ん。と。い。と。安。し。こ。ま。は。彼。法。師。の。う。の。め。目。ら。そ。け。あ。う。と。い。や。う。
と。と。教。書。し。ま。う。の。め。目。ら。そ。け。あ。う。と。い。や。う。と。い。や。う。と。い。や。う。
と。と。教。書。し。ま。う。の。め。目。ら。そ。け。あ。う。と。い。や。う。と。い。や。う。と。い。や。う。

おん身日記

〇二

徳を嘆きえ。この里を履く尋ひぬ。身のうらむる。この詮義の急るやぞき。まがづく企のうらむ。延きづく。この地へあまびあまのあまが。彼奴おそろ。かろく。この地へあまびあまのあまが。笑く。挿誂。夫を浅間。悪僧。言を實と。おのひ。べさ。おろり。この根を断んと。智と勇。大丈夫。等閑の人の。おろり。真公等。赤繩。未由。逐ぬ。捕へ。夏月。先よ。測川。牙を洗。世の契。待。何とせん。い。丹三。色。牙法師。勇。彼。人。彼。勇。智。悪法師。打。難。明日。夜。悪法師。打。おん。熱。根。除。夫。挿。笑。夫。除。妹。縁。結。生。世。思。人。嫉。限。あ。彼。強。勇。と。必。仕。損。丹。三。力。足。踏。悪。法師。三。面。六。臂。と。又。神。妻。の。妙。計。か。仕。負。せ。明。月。の。夜。の。露。結。せん。か。肩。怒。出。挿。二。方。

又女子四

八



鉄火と
面にあや
おきと
金の

おきと
金の



おきと
金の

へも落くりののがさる。明日の夜も如斯くふるまで。その雅を
遁まのりと教えたるはさる。二方へ何るも其方へ何るせつ。
まふたはたさるひてまると宣へば。そのまを焼く。そのまを
るもるげよりせつるせども。挿ぐら中へ兼て。期しつるのま
ども。二方へまを。何るもあつ。まを。遠也。つるのまを
らん。續つてく文面をのり。まを。備も丹三の。案を定る。
青熊は約せし。目もあつ。黄昏の。出兼て青熊が。往
来もまると。三糸大橋の。邊り。酒肆も待合せ居る。
し。何るもあつ。けま。先。吸ひ入る。盃を。素より
ま。まの。ま。店主も。取つ。茶肴。曾味ひ。丸
み。あつ。されども。この。徒。是を。井。と。ま。の。觀の。羨。つ。と。始

て。のり。限り。を。席。ま。る。ま。つ。石。目。の。陶。器。り。丹。三。吞。吐。
し。の。び。ま。ま。青。熊。は。進。ま。ば。碎。ま。る。ふ。ち。う。づ。ま。ら。ち。ら
十四五碗。うら。傾。け。ま。は。是。あ。く。盃。を。納。よ。彼。一。糸。志。ま。ひ。て。后
ま。め。ま。ま。祝。ま。ま。と。り。ま。丹。三。門。の。方。を。ま。ま。つ。ま。ま。つ。時
射。早。し。く。殊。ま。ま。新。ま。ま。箒。を。交。へ。ま。る。肴。の。ま。ま。今。こ。ま。ま
吞。ぶ。し。と。頻。り。進。免。我。ま。ま。半。途。の。碎。ま。ま。ま。何。ぞ。和。尚。つ
ま。ま。ま。その。酒。量。三。ま。ま。一。ふ。ま。ま。と。ま。を。携。へ。ま。取。ま。ま。ま
青。熊。ま。ま。六。七。碗。喫。乾。し。板。の。肴。も。残。ま。ま。く。味。ひ。ま。ま。ま
り。の。腹。も。満。ま。ま。と。り。ま。を。ま。ま。既。ま。ま。八。九。分。の。醉。ま。ま。ま。ま。ま
丹。三。ま。ま。か。ま。ま。あ。つ。ま。と。中。ま。ま。飲。び。二。更。の。鼓。と。俣。ま。ま。酒。店。を
ま。ま。ま。青。熊。が。形。容。派。ま。ま。ま。存。ま。ま。禪。杖。を。突。ま。ま。ま。ま。ま。ま

肩衣脱ぐ肌をあらう。その足りと一歩もさす。一歩ハ低
く。ひとまら凸凹の道を歩く。歩みなく既に三條のともを
半途落んとする。丹三青熊が衣の袖を引止る和尙権
待て。已に今酒気ゆと盛み。胸を突がごと。この川風
小酔を醒とすと。二人等しく欄干ふらり。空嘯く
居らり。丹三まいり中酔く。我々もまふりさす。青
熊が後く早。油酌をん沸。両足と逃げ揚。橋のえり川
中七膳まき。真逆しまし打込んとるせ。あよ。いづもさうらん。
青熊が太布の衣の袖を燦干の擬室球ま引くけ。か。控豫
る時。青熊ま子を突くと。様干よまが。つた。牙を懸くと。と
ころまよ倒まれば。衣の袖はらぎま。様干よま。その身を

橋のえりまむびらり。丹三まこととんく。このあさると情く
腰刀引さぬき。と。れ。ゆ。あ。さ。せ。と。さ。り。け。と。ま。青熊むくと。と
さ。ま。傍。に。捨。る。禪。杖。を。お。く。と。り。丁。と。靖。止。先。互。ひ。は。秘。術。を
授。て。あ。の。あ。ま。げ。と。く。丹三ま滅太打。一切を拂へ。青熊まひと
授。の。よ。あ。ま。ら。り。半。時。あ。ま。ら。り。打。あ。く。も。い。ま。ま。ど。勝。負。ゆ。か。さ。し。ら。り。
丹三がうらとむ刀は青熊が禪杖を半端く。切をわら。は
か。と。と。二。の。太。刀。振。上。る。両。派。青。熊。ま。い。り。相。摸。の。切。者。ま。ま
ば。牙。を。惜。ま。む。む。飛。び。入。り。と。く。丹三が右身を捕ゆと。その傳左り
の子を伸くと。上帯をうひ。抗。と。同。ら。り。さ。と。く。指。揚。げ。お。の。ま。と
丹三の比無りの。さ。ま。を。出。振。振。舞。こ。そ。面。あ。け。け。は。は。は。と
今日の飲食の主なるべ。や。ら。り。甘。辛。を。試。よ。と。叫。び。て。致。文。さ。る

三橋の上より。川中を臨んで力量は伏せて投入する。何れも
 めつと一歩うつぶさ。水底の岩石は砕く。微塵はあつて失
 せらる。されども青熊も怒りつゝ舟止む。橋より下をこのぞろ
 噛みつく。罵りつゝ。此は賊丹三汝を殺さんとて
 却て口を教する。是則順逆の周縁あり。かゝるは口を
 紙怨を汝が柔弱を悔へ。と擬宝珠を叩く。と打叩
 草の方へよりほひひりり。さればとよ挿る。舟より丹三を
 透しお母せけしとも。強く彼を倒し。是を助んとし。あめめ
 二虎争ふとたふ。かゝるは一席を傷くのうらひ。さう
 青熊丹三のうら。死するや。あめめとも。一人を除く。あ
 ども丹三謀斗を仕負ふせん。約するらるれば是非はこれ

吐く。老人とせん。そのおぼよき。さう
 仇をうらむ。若青熊却て丹三を除き。さう
 牙を賣さんとむらぐ。つらさうもけ難。一方は遁
 か。とつども其れとす。外あり。慙。ひより。顔
 少。色の白たがも。是と避ん方。肉を若む。の
 外をり。今。あ。これの。便。一。時
 とも側を離。小。従。令。牙。さ。何
 らんとも。命。あ。さ。一。下。び。出
 多。せ。い。お。それ。つけ。も。コ。ガ。牙。の。難。と。通。ん。よ
 彫。る。ん。み。の。と。い。け。は。密。よ。喜。曾。六。夫。婦
 へ。青。熊。丹。三。が。を。扱。り。ん。と。方。を。彼。家。よ。ま。の。

かゝりせ。その身をむろり止まら。か移り毒骨が方へり。密に
持来りし中。涙を取り出し。炭火より入鉄火とあり。人をも
ひかせた焼鉄を口へ顔よお當んとあまつ事ども。又今さら
女系のおを後しとも哀しとも。さうりけく勿辨るや。又母の
か色とくくしも産けけめぬ。口が顔へ傷はくく。不孝の
罪を赦させぬ。忠孝ニツラ全さかた。この難義よ公快り。
身を捨げやとありひいりども。たふくひおん二方の先途を
見届けまのせんりの外あり。さればとくく。さるごよつた悪
徒のしめよ。身を穢さす。かまの流しの身と沈められ。又母の
名汗さんしり。顔かさららそ醜しとも。た孝よおひくく。ま
病り。飽かである。奸賊を防がんあは。是よさる。このあつと。

南無梅の官神。冥妻がすたん。そのあつ。縦令の
疾もく終るべき定業ありとも。主人の先途。見届るまで。ハ
一命を延し。まのれ。と涙の柄を双手に握り。ありひきり。ま
我とらふ。顔へさつ。つごま。兼く期し。さる。とらふれども。あつと
むろり。魂消声よ。毒骨六夫婦が胸より。走り来り。ま
見え。遠のり。挿のかえ。おび伏し。息も絶え。あつければ。
抱きおこし。あをあえ。鬼角の女抱よ。ゆり。顔さあつ。あつと
をんま。半面。焼かれ。小山のどく。腫れ。苦痛
はさる。おんえ。ざれば。挿へ。是ぞ。梅の宮の如。獲るん
あ。難有。やと伏し。おが。飲び。勇まけ。ま。毒骨六夫婦の
不審。ま。その縁故を問。んと。時。青結。外面。り。大



梅の宮の
神の
再と
の

うす

肌説よめつて、欠来り。門の戸あけめくかならうあけ。
矢危く挿し手とどろく。引まんしと顔とんやひき。
りちりちと突放ら大に驚き。やあわつてあつてひき。
から変化の形とありしを。惜いなる汝が身ををりし。黄金
ふろろさんと既よこれ懐中に入まおれしよ。たろうとさうや
つらあめける。我のさる。バがる損毛。廿五年。きまよ。稀有の面
とありし。ころが算法。韻語ひし。り。り。や。や。價よさん
とのひとも。誰うその怪物。中るらんや。より。汝を癩り老
るりとも。外よふた化婦をえおれし。娘の政の室器こそ
我生涯をやさん。給物あるし。引扱もあまんの貴い。
新らんと一室よ近入る。ん。ん。ん。ん。娘のしり。ま。ま。ま。ま。ま。
ちとと烈火のせとく。猛りし。大の眼むれい。汝も娘を
何方へ落し。一やりし。縦十重の石室よ隠とも。や。遁
し。せ。か。あ。ん。と。あ。ひ。あ。か。れ。さ。一。番。を。討。た。れ。ん。
い。ま。ど。外へ走り。あ。と。い。み。沙汰を。吹。く。ん。素。る。亦。喜。る。お。
の。若。ら。お。の。こ。が。家。よ。隠。せ。あ。遠。り。其。如。退。け。し。ど。り。
あ。ん。と。欠。あ。る。と。喜。曾。六。挿。の。さん。せ。と。と。支。あ。り。紙。存。と
左。よ。踏。飛。が。し。あ。が。く。彼。如。あ。ど。り。入。り。障。子。襖。の。ま。ま。ひ
る。取。り。投。の。け。踏。碎。き。納。戸。よ。忍。び。あ。り。ま。い。娘。君
をか。扱。も。小。腕。と。り。と。捨。伏。る。挿。の。か。と。ん。と。う。も。絶。群
絶。命。け。時。あ。り。と。懐。紙。を。扱。そ。め。お。び。か。ら。ん。と。せ。い。お
し。も。不。思。議。る。式。青。結。の。娘。の。被。せ。の。人。も。ん。甲。へ。ひ。を

掛ると見えしが。五辞驟んで忽地狂気とあり。大の眼目と
 見えひいた。外面のかさへ一人は証出が。更はその行方を
 こそて姫君と先人くも不思議の神恩よとあり。斯る
 災難と脱き今更後の賞するごとく。なんぞとて安堵の心
 とあり。あひなり。さうもくも人々の挿が顔のまわり。さう
 おどろけ。その縁故をせせのひ。おん二方の声を放り。款
 せのひ。良あつと北の方の源をかへ。去年の春館を立退
 けり。既一年のそのあつと。挿ひたりが百打千磨のかん
 るん幸苦の致く。かどくも。是れ。夫が中あゆふ
 主とあり。生ともつね。顔。さう。焼。し
 是等ののさま。とあり。主の先途と見え。届んとあり。

疎かり。その例とまう。唐人の豫讓と
 やん。比べ。彼。その顔をかく。その仇を移す。ひ
 その志を継る。今挿へ。現在の主の先途を見届ん。為
 苦肉。難を救ひ。忠節。彼。男子。是
 の女子。豫讓と日紙。て。語。び。と。り
 先祖。其の。後。侍女と生。の。姫。が。新。身。は
 付。ひ。の。ら。ん。さ。り。あ。が。ら。る。命。の。主。は。仕。へ
 生。由。沿。ぬ。支。離。と。り。真。途。は。在。る。白。人。夫。婦。の。何
 言。の。あ。つ。と。さ。り。て。さ。う。り。あ。く。お。ん。牙。を。り。て
 悔。へ。姫。の。後。も。有。あ。い。ん。も。偶。は。涙。は。さ。ま。り。
 あ。つ。と。も。挿。の。悲。し。る。群。も。あ。く。婢。が。と。り。

志を變めぬひ。かうびるに唐山人よらざる。賞にぬかすも。
 牙あしりくく。いつたうら。有るに作る。不心儀のふか
 梅の宮の神息あき。かしの苦痛もあく。只顔の醜を
 見救しぬ。誰あつて。袖褻引く。まきひもあつて。仕人の
 身へ却く。涼しく。ゆと。養へけ。人とも。挿が長あ。た
 言義よ。いと。袂と。絞りの。ひら。存曾。あつて。縁。つひ。ひら。る
 へ。か。危難を。遁。せ。さ。せ。め。の。ひ。く。安。さ。あ。の。他。れ。ども。未
 青熊が。行。方。さ。志。さ。ざ。れ。ば。り。又。政。則。々。生。る。ふ。つ。ま
 だ。この。と。り。る。る。災。害。の。ま。ん。ゆ。を。う。難。し。一。先。何。方。へ
 る。り。とも。おん。住。家。を。留。む。ん。が。か。り。あ。す。と。と。その。せ。う。ご
 區。く。あ。り。よ。存。曾。が。妻。の。い。ま。す。う。が。ご。も。おん。隠。し。家。

おつさん。の。ま。い。ども。お。か。り。し。る。方。あ。ら。ず。も。後。し。ま。の。ま。
 が。く。僥。倖。お。の。ま。が。親。里。へ。井。出。の。里。あ。く。兄。あ。り。の。
 ゆ。が。素。より。律。義。あ。る。り。の。あ。く。富。る。あ。る。く。ゆ。ども。い。ま。さ
 ろ。く。あ。ら。ず。く。育。ち。ゆ。べ。一。ま。が。さ。へ。恐。ば。せ。め。の。ひ。く。世。乃
 と。う。り。を。も。持。せ。の。ん。や。と。や。け。ま。ば。存。曾。が。ま。く。の。後
 さ。あ。ら。ず。く。是。よ。さ。ら。る。あ。ゆ。お。お。え。ゆ。の。ま。お。の。れ。おん。依
 る。あ。ら。せん。斯。ゆ。が。ま。く。の。志。ぶ。く。も。存。曾。が。ま。く。の。今
 あ。ゆ。事。の。ま。ん。も。ま。く。の。が。く。い。ご。と。く。と。進。ま。る。ま。せ。
 取。り。の。も。り。あ。く。意。死。ま。く。ま。れ。ば。ん。く。の。存。曾。が。妻
 あ。も。ま。く。は。眼。ま。く。愛。も。憂。し。ま。く。の。先。も。ま。く
 あ。ら。ん。後。より。ま。の。舎。あ。く。北。の。方。姫。君。よ。挿。存。曾。が

朝きまのしせ。びそ仲冬ちゅうとうのたふめりう。曉あけの鶏とけいの声こゑ。い
深艸ふかきの里さとと立出たちだのひらる。うさかや霜しもと被かの裾すそよんふ。
安やすく伏見ふしの里さとと。岬さきも浦うら山やまく。夜よ船ふねの帆ほの明けあけ
の千尋ちぢんの声こゑも遠方とほよ岬さきも立たて。洞ほらを袖そでは残のこる。あまの
元もとのあまるほど。流ながれかゝる瀬せと瀬せよ。今いまの憂うれせぬ巨こ掠り江えの
木き懐なごの里さとよ馬遣うまやちの声こゑ。啼なきさやうでよ岬さきも立たて。意こひる
らぬ牙こゝろも砂すな代しろぢれつ。山やま路ぢたるうよ三さん室しつ戸この精せい舎しゃよまを
あふめる。大だい悲ひの誓ちかひやうませ。唯ただよめて入いる。海うみの空そらく
かゝる。とりるが。枯かやう。宇治うぢの山やま葛くわぶ。び花はなさく。法ほう乃
場ば行ゆき来きたの道みちへ隔へつ。ととも。袖そでたあもせ。あひぬる。山やまの内
の哀あはれよん。誰たれが夫それとも。山やま吹ふの瀬せよ。まらごさぬる。名

うら。

薄衣うすぎ艸くさ子こ卷まき之の四よ畢

